

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 11 月 2 日（土）18 時 30 分～19 時 45 分

場 所：雨煙別公民館

出席者：3 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 今年度のまちの動き（資料①）

※質疑応答

4. これからのまちづくり（資料②）

5. 懇談

6. その他

(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）

※質疑応答

7. 閉会

《質疑応答》

【栗山町スキー場の廃止について】

町民：

栗山町スキー場のリフトを欲しいという人がいるが、どうか。

教育次長：

来年撤去ということになっているが検討はしてみる。圧雪車やスノーモービルも、できれば売却したい。

町民：

以前使っていた圧雪車を由仁町で使っている方がいる。

教育次長：

使っていただけるのであれば、使っていただきたい。

【栗山赤十字病院について】

町長：

日赤病院の建替問題に関しては、今の病院の規模で建て替えるのであれば、栗山町単独では財政面が難しいため、近隣の市町村とお金を出し合って、総合病院を建てるべきという意見があり、一方では、栗山町に無くても近隣に総合病院があれば良いという意見もある。また、アンケートにもあったが、ある程度の医療が受けられる病院整備を、将来の患者動向も見据えて、縮小しながらも町の財政の範囲内で、町内に作ってほしいという意見もある。

町民：

救急車で運ばれたときは、正直、日赤病院には行きたくない。救急患者の受入態勢がないと思う。そのまま岩見沢市へ連れて行ってほしい。

町長：

救急の受入態勢がないということではない。

福祉総括：

平成 30 年度は、日赤病院への救急搬送は 1096 件。軽症患者が多く、重症例は少ない。専門科がない小児科や脳外科等で診療ができないという理由での受入拒否は 75 件。ルール上は Dr. to Dr. を原則としているが、緊急性がある場合には、連絡を取り直接日赤病院以外へ搬送することもある。日赤病院へのご意見は救急の受け入れについても多数いただいております、日赤病院と議論していきたい。

町長：

日赤病院は救急告示病院であり、初期救急は受けなければいけないと思う。町民の皆さんからは、トリアージは日赤病院の医師がすべきだという意見がある。しかし、最初から拒否するとはどうなのだろうかという意見もあり、町から申し入れなければならぬと思っています。

町民：

診療科によって曜日で分かれているのは、どうにかできないか。

町長：

充実というほどではないが診療科は 11 科あり、近隣では多いほう。

町民：

小児科は日赤病院にはない。

町長：

町内の小児科は、にしみこどもクリニックがある。診療所も含めると、現在町内に医療機関は 6 つある。現在、日赤病院は 136 床で、この規模での改築は難しい。改築するとなれば縮小して、町の人口減少や受療動向を見据えて最低限の病院を残し、高度な医療は 2 次・3 次医療圏と連携して、地域の医療水準を保つ仕組みが必要ではないかと思う。一番良いのは近隣で拠出しあい、病院を町に作ることだが、うまくはいかないだろう。

福祉総括：

近隣の受療動向については、通院では夕張市から 10% 程の患者が通院しており、岩見沢市よりは栗山町に来ている傾向があるが、入院については札幌市に足が向いている。南幌町・長沼町は半数以上が札幌圏へ通院・入院している。

町長：

日赤病院は非常に大きな問題であり、栗山赤十字病院改築等検討委員会で議論した内容を町民の皆さんに知っていただき、さまざまな意見をいただきたい。実際に方向付けをしてから新しい病院ができるまで7～8年かかるため、できるだけスピーディーに進めていきたい。

【北海道介護福祉学校について】

町長：

介護福祉学校について町民の考えや思いを聞きたい。

町民：

道内に介護福祉学校はどのくらいあるのか。

教育長：

専門学校は17校ある。

町民：

学費はあまり他の学校と変わらないと思うが、栗山町は家賃が高いために介護福祉学生が住みにくく、生徒が集まらないのではないかな。

教育長：

現在、介護福祉学校には女子寮があるが、町で管理していて、他と比べて高いということはない。しかし男子寮がないため、男子はどうしても民間の下宿やアパートを借りなければならず、その家賃が若干高いという印象。家賃についてはさまざまな意見がある。施設からの就学援助や、介護学生がアルバイトをして工夫している状況。生徒がどのような考えをしているのか調査を行い、これから検討していく。

町民：

介護士は給料が低い。

町長：

処遇や就業環境については制度も含めて、別の方向で要請していかなければならない。全国的に介護士不足が懸念されていて、町でも5年後には150人の介護人材不足が予想されている。国は、深刻な介護士不足に対し、外国人材や有資格者の掘り起こし、シルバー人材の雇用で賄おうと考えており、新たな介護人材の養成への支援はない状態。5年前に全国で440校あった介護士養成校が、経営難で20%減少した。同じ傾向が続けば、どんどん介護学校が閉校していくと考えられるが、きちんとした養成校がなくなれば介護が成立しなくなるのではないかなと思う。自分たちが介護を受けるようになることを考えると、しっかりとした知識のある介護士に介護してほしいと思う。

町民：

実際、介護施設自体も足りなく、入所待ちの状態で入れないという話を聞く。

福祉総括：

高齢人口の増加もあり、町には民間事業所にもご協力いただき、施設の数が多い。国の方針で、できる限り在宅で、という方向になっているが、町ではヘルパー人材が不足している。介護福祉学校と協力し、独自の講習会にも取り組んでおり、介護学生の養成と併せてその取り組みが広がっていけば良いと思う。

町長：

定員を 40 人確保しても、4,000 万円の赤字は残る。今後、介護福祉学校がしっかりと地域の中に入っていき、町民の皆さんに介護福祉学校は必要だと認めていただければ、今後も存続できるのではないかと考えている。今後 4 年間の取り組みが非常に重要で、40 人の生徒を集められない、または町民の方にご理解いただけないようであれば、廃校も考えなければならない。

【栗山高等学校について】

町長：

栗山高校に関しても、皆さんと懇談させていただきたい。

教育次長：

栗山中学校卒業生のうち、栗山高校には約 2 割しか入学しておらず、ほとんどが岩見沢方面に進学する。栗山高校の間口維持に関し、道教委にも嘆願書を出して来年の 2 間口を維持できたが、来年度の入学者数がまた 40 人を切るようであれば、1 間口への減少は避けられない。何としても 40 人以上の生徒を確保すべく、営業活動を行っている状況。その活動と併せて、栗山高校を魅力ある学校にするべく、魅力づくり委員会を設立した。現在は普通科のみだが、そのままでいいのか、例として三笠高校のような特色のある学校づくりをしたほうがいいのか、さまざまな議論を行っている。栗山高校が変わっていかないと、生徒を集められないということで、いろいろな対策を考えている。生徒に対する支援はさまざまに行っているが、それが入学者増へ直接結びついていないことから、支援は引き続き行いながら、魅力づくりをしていくことが大事だと思っている。ぜひ皆さんのご意見をいただきながら進めていきたい。

町長：

ふるさと教育ということで、教育委員会や栗山高校も頑張っている。地域の方にもお世話になることがあると思うが、よろしく願いたい。